

# 鯖江市【コミュニティバス利用促進事業】

## (1) 地域課題分野

[  ] ①交通、 [ ] ②防災、 [ ] ③環境、 [ ] ④健康福祉、 [ ] ⑤産業、 [ ] ⑥農林水産、 [ ] ⑦教育、 [ ] ⑧行政、 [ ] ⑨観光・文化、 [ ] ⑩その他

## (2) 課題

- ①コミュニティバスの利用者数の管理方法
  - ・利用者数の記録の簡略化・省力化（毎月、運行事業者から提出された紙記録を職員がExcel様式に落とし込む必要。Excelデータへの転記集計自体を廃止したい）
  - ・運賃収入の正確な把握（無料利用者や一般・定期利用者の各人数・収入額について正確に集計ができるようにする必要がある）
- ②コミュニティバスの利用促進…低迷した利用者数の回復（まずはコロナ禍前のH30年度（14万人）の水準に戻すための取組）
- ③コミュニティバスポータルサイトの刷新…極力予算をかけず、まずは職員が簡単にページの編集を出来るようなサイトへの刷新

## (3) 現状

- ①・バスの運転手はバス停毎の乗降者数を毎日紙で記録。市にて1か月分ごとに記録を集計し、バスの利用実績を把握。
  - ・令和4年度に試験的に簡易入力アプリを作成し、タブレットによる記録管理を実施。バス運転手から運転に集中できないとの声あった他、週に数回しか運転しない運転手や高齢の運転手、タブレット操作に慣れない運転手もいることから、アプリ内の仕様変更も含めて、現在再検討中。
  - ・バス乗降口へのセンサ設置等による人数把握も検討したが、全てのバス（16台）にセンサを設置すると、設置・保守点検の費用が膨らみ予算的に厳しい。
- ②・コロナ禍の影響もあり利用者が低迷(H30：143,579人 ⇒ R4：113,806人)。市の計画では、R8年度17万人が目標。
  - ・まずは市民のコミュニティバスに対する認知度を高めるため、コミュニティバスに関する情報発信を積極的に行っていく予定。  
例：若者層への周知を目的に、新たにSNSツール(Twitterやinstagram等)での発信 / 各地域の路線に合わせたおすすめのコミュニティバス活用法等を各町内に回覧 / 市のイベント等で公共交通のブースを出した際に、住民の方にまずは利用してもらえるような企画、などを検討中。
- ③・10年以上前に職員がポータルサイトを構築。現在も使用中だが、HTML形式でページが作成されており、知識がないと編集・管理が難しい。

## (4) ステークホルダー

関係者・団体、関係市町・部署等	役割・立場
コミュニティバス運行事業者 4社	コミュニティバス運行業務受託者
市民	コミュニティバスの利用者

## (5) 地域課題解決の糸口

- ①②コミュニティバスの利用者数や運賃収入の効率的な把握方法、利用促進のアイデア
- ③県や市が公式HPにて発信・ページ編集をする際に使う誰でも操作がしやすい方法でポータルサイトの構築

## (6) 提供可能な資産・データ

- ・運転手が使っている紙媒体の形式データ
- ・R4年度に試験的に試した簡易入力アプリ
- ・つつじバス利用者実績数（過年度路線別 H25年度～）
- ・つつじバス年度毎時刻表
- ・現状のポータルサイトのHTML形式テキストファイル等